

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895200117		
法人名	医療法人社団 翌檜会		
事業所名	エルダービレッジグループホーム		
所在地	兵庫県神戸市西区榎谷町福谷882番		
自己評価作成日	2017年3月10日	評価結果市町村受理日	平成29年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様主体の生活の場である事を職員が理解し、「一人の人」として尊重しケアを実践している。 ・入居者様の行動に否定的な声かけをせず、話を傾聴し本人主体の生活が出来るよう努めている。 ・入居者様の状態変化に合わせ、柔軟に支援内容を修正、変更をしている。 ・皮膚疾患等(水虫等)のある方は、入浴していない日は足浴、部分清拭を行い清潔保持に努めている。 ・入居者様、ご家族、来客者に笑顔で接している。 ・ご家族様来居時には近々の状況報告を行い、コミュニケーションを図っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度の業務目標「入居者一人一人に寄り添った介護をしよう」を、あえて次年度も掲げることで、さらに個別ケアを目指そうとしている。同時に、職員の主体性と積極性を伸ばせる職場環境にするために、職員が意見を言いやすい雰囲気作り、職員自身による毎月の目標設定とそのための方針を明確にするなどの、仕組みづくりを行った。職員も、しらすらうちに業務優先になってしまうことを危惧しており、利用者の立場に立って振り返ることで利用者の思いに近づき、思いを汲み取ることをあらためて大事にしようとしている。利用者の重度化が進み、意向の表出が困難になってきている状況であっても、思いを汲み取り、外出の機会を少しでも作っていききたいと、職員は強い意欲を持ち取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1階自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を理解した上で、職員間で話し合い年間業務目標を作成し、毎朝復唱し意識付けを実施している。	今年度の業務目標を振り返った結果、次年度も「入居者一人一人に寄り添った介護をしよう」を掲げ、取り組んでいく。職員自らが作成した独自の目標達成に向けて、毎月の目標を通じて意思疎通を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの訪問があり、交流している。施設外での地域交流がほとんど出ていない。	今季、主催のサマーパーティーに地域代表者の参加が得られ、事業所の理解につながった。又、家族からの発案によりアロマセラピーの時間を新しく取り入れ、利用者の癒しとなった。ボランティアの訪問交流も継続し、4月からは新たに紙芝居の訪問が予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族、地域住民対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解に対し活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人、事業所の運営状況を報告している。出席者よりアドバイスを頂き、話し合い内容を具体化できるよう努めている。	主に家族、利用者、地域包括の出席がある。地域代表者は、日程の都合もあり欠席が多い。事業所からは、毎月の行事を通じて利用者の様子を報告するなど、事業所への周知に努めている。地域包括からは近隣の状況に関する情報提供があり、参考にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情については、担当者に連絡し助言、指導を頂いている。	市へは事故報告等、必要な事務連絡を行い、時には情報交換や相談もしている。区の事業所連絡会では、他事業所と共に情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が理解しており、身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。	職員の事前アンケートを基に、具体事例によるグループワーク等の研修を実施した。結果、職員の気づきを促し意識統一につながるなど、ケアに反映できた。各フロアは、エレベーターでの行き来は自由に出来る状況ではあるが、職員は利用者の様子を察知し、付き添っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の高齢者虐待防止勉強会を全職員対象に実施している。 不明な打撲痕等については、全職員で話し合い共有し、適切な支援方法について話し合いをしている。	施設合同による研修で周知を図っている。日々の言葉かけのみならず、些細な打撲跡にも注意するなど、日々の観察やケア方法にも気をつけている。管理者は、行き過ぎた馴染みの関係による不適切な言葉かけについて、普段から職員に注意を促している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利については、施設内に掲示し全ての方に観て頂ける様にしている。	まとまった研修としては、行えておらず、職員はおおまかな理解にとどまっている。実際の具体事例はないが、管理者は、今後も活用の推進に向けた情報提供の必要性を感じている。	認知症の理解の中で、或いは会議の中で、少しずつでも学ぶ機会を持たれてはいいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を頂いている。	家族からは、事業所での生活に馴染めるか、又、看取り等についての不安が多くあがる。事業所からは、家族だけでなく利用者の見学を願ひし、利用者が馴染んでもらえるよう職員が支援する。家族の協力もお願いしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書、外部への苦情相談窓口の連絡先を施設内掲示板に掲示している。運営推進会議の議事録をご家族来所持に閲覧出来るようにしている。	年2回、行事と併せ家族会を開催している。家族間のフリートーク、事業所への要望を聞く時間を設け反映している。個別の要望が多く、運営につながる意見はあがっていない。毎月の支払のための事業所来訪時に話しを聞いたり、相談を受けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営状況の情報は、ミーティングを利用し職員へ伝達されている。 職員の意見はリーダーミーティング時に管理者へ伝達されている。	会議等で、職員からの積極的な意見や提案を受け、その場で検討し、活かしている。特に行事に関しては新企画の提案がある。業務に関することは、各フロアリーダーから些細なことも含め、意見等が多くあがり、その都度反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者にて職員の状況把握を行い、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加、情報提供、実践者研修の推奨と参加費用の全額施設負担を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は西区グループホーム連絡会に参加し、区内グループホーム相互の情報交換を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境の中での不安な気持ちを軽減出来る様、細やかな声かけ、傾聴を行い安心が確保出来るよう関係づくりに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り家族に来所して頂くようお願いし、本人の状態等を説明し、安心して頂く様に努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を伺い、話し合いを行い要望実現が難しい場合は、ご家族に説明、理解して頂き、他の社会資源を活用して頂くようにしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員との関係以上に、入居者同士の関係作りが出来るように支援している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの内容を説明し、要望を反映できるようにしている。 家族との外出を優先的に考慮し計画を立案している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出は出来ないが、日々の関わりの中で、馴染みの場所や風景を回想できる支援に努めている。	利用者の好きだったことや得意なことを、普段のレクリエーションに反映し、自ら率先して楽しんでもらえるよう声かけしている。近所の人や昔の友人等の訪問の際は、居室でゆっくり過ごしてもらっている。日常の会話から懐かしい話を聴いて参考にしている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの位置関係やレクリエーションを通じて入居者同士の関係構築に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が個人的に面会には行っているが、施設からの支援は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向聞き取るように努め、職員間にて話し合い共有している。	利用者から直接聴かせてもらうことが多いが、普段の表情や行動からも察知し把握するようにしている。利用者同士の会話や、家族からの情報を参考にすることもある。利用者への普段の観察を重視し、思いを汲み取るよう努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用状況、生活状況等を家族や事業所より情報を得ている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録はカルテ記載し、食事量、排泄、入浴、バイタルなど別紙にて記録。朝の申し送りを出勤職員全員行ない情報を共有、把握出来る様に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のフロアミーティングに於いて、支援の在り方を話し合い現状を把握し、家族、各セクションに相談の上、支援計画に生かしている。	フロア会議前に、担当職員から利用者個々の課題をあげてもらい、会議で検討、それを日々の支援内容に反映している。モニタリング及び計画の見直しは、基本3ヶ月毎とし、利用者の状態変化に応じて随時計画を見直している。家族の意向も事前に把握し参考にしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期間の支援計画に於いては、ケア目標用紙に記入し、ケアプランに生かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事務作業の手伝いや来客へのお茶出し等、利用者のニーズに対し、臨機応変に対応している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用までは至っていない。音楽療法、ドックセラピー、書道等のボランティアを毎月受け入れている。外部実習生を受け入れている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックにて、内科、整形外科の受診対応。歯科、皮膚科に於いては往診にて対応している。その他受診、検査については家族へ依頼協力して頂いている。	殆どの利用者が、納得のうえで至近の併設クリニックを利用しており、職員が付き添って受診する。協力歯科医院からは、往診による定期的な口腔ケアと必要に応じた治療がある。かかりつけ薬局が処方薬を届けてくれ、一包化の協力も得ている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する老健の担当看護師に連絡相談し、処置や受診などの指示を受けている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院が速やかに出来る様、生活、本人の状況を書面にて提供。急変時は主治医からの紹介により入院が出来る体制にある。	今年度、入院事例があった。入院先の医療機関とは関係性が築けており、管理者が病棟を見舞っている。管理者は、早期退院に向けて病院関係者及び家族と相談しながら、退院後の受け入れ体制を整えている。転倒からの骨折などで入院に至らない様見守りながら、足こぎペダルなどを使って下肢の運動をしている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については家族の意向を重視し、話し合いながら個々の状況に合わせ、方向性を決定している。	契約時に、「重度化に関わる対応の指針」を説明している。看取り期には、家族、主治医、看護師、管理者、及びケアマネでカンファレンスをし、ケアプランを作成している。看取り期のケアを時系列で記録し、振り返りによって、職員間で経験を共有している。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応はマニュアルを作成し、マニュアルに準じて対応している。年1回の心肺蘇生法(AED含)講習、医療連携勉強会を実施している。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害時の地域との協力体制について構築できていない。	今年度は一度だけの訓練に終わった。夜間を想定した訓練では火元を2階のキッチンとし、利用者を階段やエレベータで下した。停電時には煙から逃れる事を最優先とし、各居室からベランダへの非難を考えている。最近、消防署へ立合いの依頼をしていない。地震や水害で避難する先としては、隣接事業所を想定している。	消防署の立合いを依頼し、運営推進会議のメンバーにも案内して、評価や意見を貰われたらどうであろうか。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況に合わせて言葉を選択し、言葉かけを行っている。呼称に関しては本人の状況に応じ、本人が安心して頂ける形をとるようにしている。	理念の1つである「尊敬と笑顔であいさつしよう」を心掛けている。トイレへの誘導では直接的な表現を避け、居室内での排泄介助では喚起に注意している。皮膚科や歯科の往診時には居室を使い、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を伺う事を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向に沿うように努めている。行事等の参加を促しているが、無理強いしないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人と一緒に選んで頂いている。理美容は訪問サービスにて本人の好みに応じられる様対応している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の運搬、盛り付け、片付けまでそれぞれの能力に応じた形で支援している。定期的ではないが外食の機会を設けている。	併設事業所の厨房で調理された献立が届く。事業所では盛付と炊飯をし、汁物を温めている。事業所で調理する日を毎月4回程設けており、利用者からの希望も聴いている。「秋の味覚祭り大会」や「普段食べない物を食べよう会」などで、チャーハン、餃子、オムライスなどを作り、包丁を使う利用者もいて、皆で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ、食事形体の変更、大きさを考え食べやすい形で対応している。水分については個々の嗜好に近いものに変更したり工夫して水分の確保を実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い、能力に合わせた支援を行っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた製品を選択し、必要最低限の使用に努めている。	24時間の排泄チェック表を記録し、適宜のトイレ誘導によって、全員がトイレで排泄している。夜間の排泄に関しては、利用者の状況に応じて、睡眠重視かトイレ誘導かを見極めている。ケア用品の業者による講習会で、用品の種類や吸水スポットなどを学び、ケアに活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬以外の効果の期待できる飲み物を提供したり、医師、看護師と相談しながら対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず、本人のニーズに合わせて入浴できるようにしている。	週に3~4回の入浴を目安にしている。風呂を使わない曜日は設けずに、利用者の希望には柔軟に対応している。入浴を好まない利用者には、入浴する個々の動機を探したり、日を変えて誘っている。好みのシャンプーや石鹸を使い、職員と一緒に時間を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間の設定はせず、個々に合わせた対応をしている。 リビングにはソファー、マッサージチェアを設置し、ゆっくりと過ごして頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬辞典を常備し、個々に知識を学べるようにしている。新しく処方された薬の副作用についても調べ、看護師の協力も得て本人の状態変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事の手伝いは、無理強いせず本人の状況に合わせて支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出がスムーズに出来るように配慮し、天候に合わせて、散歩、ドライブ、おやつ外出を実施している。	日常的には、近くの公園への往復20分程の散歩をしている。事業所の車を使って、利用者が好む近くのスーパーやケーキ屋、バリアフリーの喫茶店へと出掛けている。花見時には、家族も一緒に弁当持参で近くの公園へ出掛ける。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で安心される方には、少ない金額で個々に管理して頂いている。外出時など能力に応じ支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば施設の電話を使用して頂いたり、入所後も継続して携帯電話を使用して頂いている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室、表札等の表示は判りやすいように工夫している。玄関、リビングは季節に応じた掲示を行っている。	建物は、明かりとり用の中庭を囲む形になっており、リビングには3方向から自然光が入って明るい。職員はキッチンのカウンター越しからも利用者が見守れる。大きな食卓テーブルの他にソファが置かれ、利用者は新聞や文芸誌を読みながら、或いは録画された歌番組を観て、ゆったりとした時間を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに個人用のいすを準備しており、気兼ねなく使用できる様にしている。自由に座って頂けるソファを設置しており、ゆっくりとくつろげる様にしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣向品、家族の写真を持参した頂き、本人の和める空間作りに努めている。	室内には洗面台と作り付けのクローゼットが有る。ベッドは好みの物をリース使用している利用者が多い。利用者自身の若い頃や家族の写真、誕生日の寄せ書き、趣味の作品、愛読書、テレビ、小机など、利用者と家族の思いが籠った過ごしやすい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ、適宜掲示物を変えたり、工夫している。危険個所に於いては身体拘束にならないようにセンサー等を設置し、安全に努めている。		